

建築構造力学正誤表 2011年4月30日版

連番	章	ページ	位置	本文	側注	誤	正	備考	
1	はしがき	iii	下から10行 3)の段落	○		状態だと思う。	→	状態だと思う。	括弧「」をつける
2	目次	ix	11.1ダイバージェンスの定理	-	-	11.1 236		11.1 ダイバージェンスの定理 ……236	節の場合ある「……」がない。
3	第1章 構造力学の基礎	15	下から9行	○		未定定数法	→	未定乗数法	
4		15	下から6行	○		未定定数法	→	未定乗数法	
	第2章 建築構造力学の概要								
	第3章 ニュートン力学								
	第4章 構造物のモデル化と対象とする部材								
5	第5章 力の釣合い	61	例5.1の問題文	○		m	→	n	
6		70	図5.25 左側上から3つ目の図の左端	○		M <sub>2</sub>	→	M <sub>1</sub>	添え字2を1に替える
7		70	右下の側注の下から7行目		○	変位を生じて	→	変位 Δ を生じて	Δ を追記
8		75	図5.30の右側の図	○					Pxの矢印の高さ位置を部材軸線に合わせる
9		77	(iii)の文章	○		モーメント	→	曲げモーメント	
10		78	図5.31(c)	○					斜めの矢印Pの角度を表示する円弧をC点に近づけ、角度表示と分かるようにする
11		81	図5.33(c)	○					曲線①～④～Bの上部の縦線ハッチを削除する。ただし、②～④～③を結ぶ縦線は残す。
12		107	下から2行目の式中	○		$R \cdot \frac{l}{2\sqrt{2}}$	→	$\frac{R}{\sqrt{2}} \cdot \frac{l}{2}$	$\sqrt{2}$ の位置を変える
13		109	側注最下行の図		○				左端のNの矢印を左向きとする
14		114	1行目	○		DF材	→	DE材	
		118	図5.49(f)	○					p119の図(f)と同じ寸法表示とする
15		118	図5.49(g)	○					B支点をローラーとする
16		119	解答 演習5.1の図(h)	○					A支点のh <sub>A</sub> とその矢印をB支点に移動する
17		120	図5.51(a)中	○		80kN・m	→	80kN	・mを削除する
18		120	図5.51(a)中	○					B支点をローラーとする
19		122	演習5.4(c)の左上の図中	○					C点の○を削除する
	第6章 ひずみと変位の関係								
20	第7章 応力とひずみの関係と断面積算	154	例7.2	○		例7.2	→	例7.3	以後、すべて番号の振り直しが必要
21		154	例7.3	○		例7.3	→	例7.4	
22		155	例7.4	○		例7.4	→	例7.5	
23		156	例7.5	○		例7.5	→	例7.6	
24		156	例7.6	○		例7.6	→	例7.7	
25		156	例7.7	○		例7.7	→	例7.8	
26		159	例7.8	○		例7.8	→	例7.9	
27	第8章 梁のたわみの算定	169	側注 (6)集中荷重の項	○		-P	→	$-\bar{P}$	Pの上に「 $\bar{}$ 」をつける
28		171	側注		○	(1)-Eiv''		(1)-Eiv''	νをiにする
29		176	式(8.42)の一番下の式	○		w*	→	w*(t)	(t) を追加
	第9章 たわみ角法								
	第10章 固定法								
30	第11章ダイバージェンスの定理	236	下から13行		○	ひずみや断面	→	ひずみや断面力	力を追加
31		237	下から3行		○	w(x)*	→	w*(x)	* の位置変更
32		238	側注 定積分の項		○	上から下へ	→	下から上へ	
33		249	側注の式		○	f(x)		f(x)	プライム「'」をつける
34		251	図11.13 あるいは本文	○					材長がであることを明記
35		252	図11.14(a), (b)	○					点Aの「A」を追記
36		255	図11.16	○					(b-1)のローラを梁につける
37		256	上から9行の式	○			→	(11.83)	式番号を追加
38		259	側注 τ (y) の式		○	GA	→	A	「G」を削除
39	第12章 仕事の原理	277	式(12.19)上式	○		積分の上限の「1」	→	/	l(イチ)から / (エル)へ 2箇所
40		280	図12.11(a-1)				→		Pを追加
41		281	図12.13(b-1)				→		hθを示す線を追加
42	第13章 エネルギの原理	319	上から5行	○		発散定理より	→	ダイバージェンスの定理より	11章と文言統一のため
43		319	上から7行	○		発散定理より	→	ダイバージェンスの定理より	11章と文言統一のため
44		321	参考文献[10]	○		久一郎	→	久一郎	
45	第14章 近似解法	324	側注 δ v の式		○		→		この式では、δ φ = 0となるので変更要
46		327	式(14.21)	○		EivVx)	→	EivIV(x)	左括弧をつける
47		346	引用文献[6]	○		久一郎	→	久一郎	